

政策課題研究3

在来プランクトン食魚の餌資源評価に関する研究

在来プランクトン食魚（コアユ・ホンモロコなど）の望ましい餌資源を評価するため、プランクトンの発生状況を継続的に監視するとともに、栄養塩からプランクトン、魚に至るまでの「餌環境のつながり」に着目し、相互の関係性を整理することにより、餌環境の現状を把握します。また、現状の評価を通じて、餌環境からみた在来プランクトン食魚への影響要因を解明し、対応策を提示します。

<サブテーマ>

- ・琵琶湖・瀬田川プランクトン等モニタリング調査
- ・プランクトン一次生産量把握手法の検討
- ・在来プランクトン食魚にとって望ましい餌環境の評価

【現状における課題】

プランクトンの変化

- 植物プランクトン 種類数の減少・小型化
- プランクトン種組成の変化



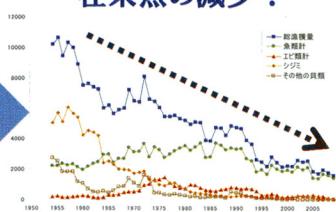
エサ環境の変化

在来魚のエサが足りているか？

(足りていない場合)

- ・エサの量が減ったのか？
- ・エサの質が変化したのか？

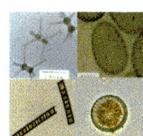
在来魚の減少？



【課題解決に向けた対応】

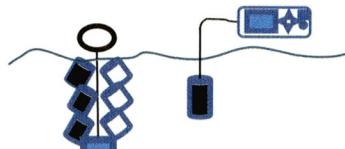
1 琵琶湖・瀬田川 プランクトン等モニタリング調査

継続的な監視と基礎データの蓄積



2 植物プランクトン一次生産量把握手法の検討

餌環境の評価に必要となる植物プランクトンの生産量（一次生産量）把握のための手法検討。



3 在来プランクトン食魚にとって 望ましい餌環境の評価



餌環境の関係解析
↓
モデル等を活用した
魚-餌環境の関係解析
(水産試験場との連携)

○ 沖縄の餌環境からみた在来魚への 影響要因の解明

○ 望ましい餌環境に向けた対応策提示